



滋賀バルブだより

滋賀バルブ協同組合

〒522-0037 彦根市岡町 52

TEL 0749-22-4873 FAX 0749-22-0463

猪突猛進 2019年 年頭のご挨拶

『明けましておめでとうございます』

理事長 中川 哲
(株) 昭和バルブ製作所 社長



昨年は十一月六日から九日までタイへの研修旅行がありました。一昨年のベトナムと同様に大変あわただしい研修となりましたが、現地のバルブメーカーであるSCIさんの工場と滋賀県に本社のある草津電機さんの現地工場を訪問し見学をさせていただきました。SCIさんは元々日本からの技術を導入して作られた工場で比較的彦根のメーカーに近い鉄鋼製の水道用バルブや産業用バルブを製造されており、参加された皆様にも大いに参考になったかと思えます。草津電機さんの方は現地での操業歴も長く、ロボットや自動機を使われて、我々にも分かり易い工場のラインで安定した生産をされており、現地の日系家電メーカーや日本の本社向けに発送されていました。これも参加された皆様の工場の省力化や合理化の参考になったのではないかと思います。また、現地での何回かの食事を通じて情報交換や懇親を重ねることもでき、有意義な研修旅行になりました。本年は今のところ韓国の釜山で造船所と現地のバルブメーカーを見学させていただく予定を立てていますのでご参加ください。

他にも例年通り幾つかの事業を行いました。が、十月の親睦ゴルフ大会では謀らずも優勝をさせていただき有難うございました。できれば本年は春と秋の二回の開催ができればと考えていますので、奮ってのご参加をお願いいたします。

本年六月より当組合も賛助会員制度を取り入れたと考えています。新たに有力な企業に賛助会員として加わって頂くことで、当組合の更なる活性化と活動資金の安定化を図りたいと思いますので、正会員の皆様よりの積極的なご推薦とご勧誘をお願いいたします。

滋賀バルブ協同組合は日本バルブ工業会と密接な関係にあり、日本バルブ工業会の彦根支部としても機能しており、会員の中には日本バルブ工業会に所属されておられる企業も多数あります。本年は日本バルブ工業会の総会担当支部が彦根支部となっております。つきましては日本バルブ工業会にも属しておられる会員には総会と総会翌日に開催されます親睦ゴルフ大会には是非ご参加いただきますよう宜しくお願いいたします。

昨年度は比較的安定した景況ではなかったかと思えますが、米中貿易摩擦の懸念を始め世界では様々な不安定要素が発生してきています。世界的な景気の後退を予測する経済評論家も出てきています。今のところ日本経済は比較的安定をしていますが、先行きの不透明感は拭えません。そのような中で競争による価格の低下を避けるためにも独自の技術と発想によるオリジナル商品の開発に力を注いでいただき、産地全体として発展できることを期待しています。

本年も理事長として誠心誠意努めてまいりたいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

謹賀新年

副理事長 濱口 浩一
(宮部鉄工 (株) 社長)

新年、あけましておめでとうございます。皆様方におかれましてはそれぞれに楽しいお正月を過ごされたことと、お慶び申し上げます。加齢とともに時の流れを早く感じると言いますが、昨年も様々な出来事が次々と現れ、すごいスピードで過ぎ去ったような一年でした。大雪、豪雨、台風、地震などの自然災害、平昌オリンピックやロシアW杯などのスポーツイベント、悪質タックルなどのパワハラ問題、また、国政を見ると、昨年もモリカケ問題で国会は空転するかと思いきや、働き方改革法案・IR実施法案、入管法と水道法の改正とそれぞれに身近で、今後、私たちの生活や企業活動に影響を与えそうな重要な法案が次々と可決され、今後の展開を注視せざるを得ない状況です。一方で、産業界、特にものづくりの世界では金属・非鉄・自動車関連などの業界で品質データ改ざんや検査不正などの不祥事が頻発し、コスト優先、納期ありきの状況に批判が集まりました。厳しい市場環境を言い訳にすることは出来ませんが、他山の石として、あらためて自身の足元を見直すきっかけとなりました。

本年は亥年ということで、いつも年末には十二支の意味を調べてみたりするのですが、「守りに徹した方がいい」とか「変化についていく努力が要る」とか、色々な解釈が出てきて、結局、凡百の身には今年はどうなるかはわかりません。移っていく時流と企業活動との接点に敏感に適応し、攻めるところは攻めつつも、品質と安全安心にこそ愚直に守りを固めて、地域と業界の発展に微力を尽くして、社員、幸福と社業の繁栄に結び付ける一年にしたいと考えますので、本年もよろしくお願い申し上げます。



(株) オーケーエム
取締役会長 奥村 恵一

2019年の年頭にあたり、滋賀バルブ協同組合の皆様は、気持ちも新たに新年を迎えられたことと思います。この2019年が皆様におかれましては輝かしい繁栄の一年でありますよう、お祈り申し上げます。

現在の世界経済情勢は、米国トランプ政権が、中国に貿易戦争をけしかけている関係上、両国だけでなく、日本、欧州、発展途上国まで影響をしかけています。さらに日産のカルロス・ゴーンショックにより株価も落ち込みました。しかし、政府は月例経済報告において、国内景気は「穏やかに回復している」との判断を維持しています。設備投資の意欲は大きくは衰えていません。

そのような内外の経済情勢の中で、当組合のタイ視察ミッションに参加をさせて頂きました。SCI社様は、主に水道向けのゲート弁、エア抜き弁、チャッキ弁や、グローブ弁を多品種小ロットではなく、サイズ毎に大量生産をされていた。

一方、草津電機様は、同じ機種と同じサイズのモータを大量生産するのではなく、色々な機種やサイズのモータを多品種小ロット生産を短期で行うのが同社のビジネスモデルです。わが社も含めてではありませんが、今後生き残っていくかと思うと、やはり多品種小ロットで、短納期対応をすることが、バルブ事業の生きていく道だと思えます。

そういうビジネスモデルを構築するために、マーケティングの一環で、国連サミットで採択された「持続的可能な開発」であるSDGsに着目する事が重要だと考えます。17項目のSDGsの開発目標があり、当業界に関係する内容として、「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「産業と技術革新の基盤をつくろう」、「海の豊かさを守ろう」が、関係する目標にあげられます。

常日頃より、マーケティングをして、繰り返し注文が入る仕組みをつくるのが非常に重要です。その中で、特にハイライトすべき項目は、IoTや、AIに目を向けざるを得ないでしょう。本年もさらに当組合が飛躍できる年にしていけるようにしていこうではありませんか。



滋賀バルブだより

滋賀バルブ協同組合

〒522-0037 彦根市岡町 52
TEL 0749-22-4873 FAX 0749-22-0463

新春メッセージ

(株) オークエム

代表取締役社長兼CEO 村井 米男
(日本バルブ工業会 理事 彦根支部長)

明けましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。日本バルブ工業会におきましては、組織の改革も順調に進み、従来の各部会活動を始め運営委員会や各種委員会が地に着いた活動を進めることが出来ております。彦根支部活動におきましても、滋賀バルブ協同組合様との共催活動を基本にしており、会員各位のご支援ご協力があられ、お陰様で他の支部とは一味違う形で、バルブ業界発展に寄与しているのではないかと考えております。今年も滋賀バルブ協同組合様との共同事業運用に知恵を出していき、益々のご支援ご鞭撻いただきますように宜しくお願い申し上げます。今年には新天皇の御即位が国民上げてのおめでたになり、GWの連休も大いにお祝いしたいと考えます。昨年は平昌冬季五輪があり開催期間中は毎日応援で日本の勝敗に喜々としておりました。このようなイベントは気持ちの高揚、市場喚起には重要だと思います。今年には日本ラグビーワールドカップが開催され、大いに楽しませてくれるでしょう。2020年東京五輪、2024年びわ湖国体、2025年大阪万博などで、未来に明るい希望を持ちたいと思います。SDGs【誰一人として取り残さない、持続可能な社会の実現】を目指して、積極的な取り組みが始まっています。2030年に向けての目標に活動の輪が広がっています。私たちの出来ることからコツコツ取り組むとともに、いままでのビジネスの取組みとは発想の転換をしないとけない事も出てきています。バルブ工業会でも経済産業省からの働き掛けもあり、将来に対する議論をしていく時期が来ていると感じています。また次世代経営者の育成についても議論に挙がってきています。後継者育成、事業継承などの課題解決とともに確実な一歩で、良い亥年でありますことを祈念し、皆様のご多幸とご繁栄を心よりお祈り申し上げて、挨拶とさせていただきます。

「新年を迎えて」

(株) 清水合金製作所

代表取締役社長 和田 正憲

新年明けましておめでとうございます。組合員の皆様には日頃よりお世話になり、厚く御礼申し上げます。

本年は様々な変化、変革を予感させます。今年の干支は、己亥（つちのとい）ということですが、同じ干支だった六十年前の出来事を調べてみますと、皇太子様と美智子様のご成婚がありました。六十年前に結婚された当時の皇太子様が、六十年後の今年、天皇を退位され、元号も変わり文字通り、新時代の幕開けとなります。また、当時は1958年から始まった岩戸景気の中にあって景気は良かったようです。ただ、良い事ばかりではなく、伊勢湾台風では、5000人を超える方々の尊い命が奪われていました。六十年後の今年、どのような一年になるのでしょうか。

ここで、イノシシについて少し考えてみますと、どなたも連想されるのが、「猪突猛進」ではないでしょうか。しかし、やみくもに突っ込んで行っても仕方ありません。イノシシは突然現れる動物であるともいわれます。機会（チャンス）も突然やってくるかもしれません。

今年の企業活動のテーマを次のように定めて活動していく所存です。頻発する大規模自然災害への対応や水道関連施設の老朽化など水道事業を取り巻く経営環境を踏まえ、耐震化、長寿命化や災害対応、維持管理性の向上など時代の要請やニーズに基づきニーズを形に「極み」の一品をスピーディに開発し、上市して社会貢献に努めてまいる所存です。

我々社員一同、ライフラインの一翼を担う企業として、成果を出し社会的責任を果たしていかなければなりません。そのために『お客様に喜んでいただく』という基本に立ち返り取り組んで参りたいと存じます。

最後になりましたが、組合員皆様の益々のご隆盛とご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



「謹賀新年」

(株) 大和バルブ

社長 伊東 利一

新年明けましておめでとうございます。組合員の皆様には日頃からお世話になり厚く御礼申し上げます。平成最後の正月となりました。平成を振り返るとバブルの清算に時間がかかり、上向くかに見えた景気も何度も押し戻され、「実感として感じられない」と言われた好景気も、やと少しづつ感じ取ることが出来てきたのが最近でしょうか。大地震など天変地異が続いたのも平成でした。今年の干支は十二支最後の『亥』になります。これはエネルギーやパワーを蓄えている年、次のステージやステップに向けて準備していく時期ということで、まさに改元という節目を迎えるに相応しい干支であると思います。

さて建築設備業界は、関西では万博開催が決定し明るい話題となりました。いよいよ東京オリンピックの開催が間近になり、都心再開発物件はもう待たない状況となっております。今年はかなり、繁忙な年となることが予想されます。オリンピックイヤーの二十年は少し落ち着き、その後、数年は抱えている再開発受注案件で繁忙期が続くというのが業界の見立てとなっております。しかしながら『好事魔多し』の故事もありますように、海外ではトランプ大統領が仕掛け、どんどん厳しさを増す米中の貿易戦争、ヨーロッパではイギリスのEU離脱などの問題があります。国内でもその海外の影響も含め、さらに消費税増税など先行きの不透明要因を抱えています。そのような中、しっかりとムチを入れ、かたや手綱もしっかりと握っていきたいと思っております。

政府が推進する『働き方改革』、慢性化する『人手不足』問題に対してITの活用、自動化などの設備投資をどれだけできるかどうか、また将来的には生産も含め企業活動にAIを取り入れていくことができるかが企業格差につながっていくものと思われまます。

最後になりますが、冒頭の干支の続きで『亥』は『無病息災』といわれております。組合員の皆様のご健勝を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

角田鉄工 (株)

代表取締役 角田 孝幸

新年明けましておめでとうございます。組合員の皆様には健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、日本漢字能力検定協会の2018年「今年の漢字」1位が「災」と示すように、西日本豪雨や大型台風による被害、北海道など日本のあちこちで地震や災害に悩まされた年だったように思われます。

スポーツ界では、世界の舞台で活躍されている日本人選手がクロズアップされ、2020年に開催される東京オリンピックのメダル獲得に繋がる明るいニュースが伝えられているものの、日大アメフト部の悪質タックル問題や、アマチュアボクシング協会、日本相撲協会の暴力問題など、組織の在り方や、ガバナンスに関して、純粹に好きなスポーツや選手を応援しているファンにとっては残念なニュースもありました。一年のいろいろな出来事の中で、不快に思うことはいくつもありませんが、災い転じて福となるよう常に気持ちにはプラス思考でありたいものです。

我々の水道業界に目を向けますと、昨年は改正水道法が成立され、水道の基盤強化への道筋が示されたのではないのでしょうか。人口減少社会の到来とともに、日本の水道は大きな転換期を迎え、解決すべき課題が山積みです。広域連携・官民連携の推進のためにも、各事業体における適切な資産管理の推進のためにも国が強く都道府県に働きかけ、全国の事業体が強靱・安全・持続を追求する水道事業の基盤強化への体制を整える検討を早期にお願いしたいと考えています。

水道バルブ業界もまだまだ厳しい状況が続いておりますが、本年も当社の製品が少しでもお客様のお役にたてますように新たな製品開発に努め、初心を忘れず何事においても気持ちを取り組んでまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



滋賀バルブだより

滋賀バルブ協同組合

〒522-0037 彦根市岡町 52

TEL 0749-22-4873 FAX 0749-22-0463

タイ視察研修を終えて

副理事長 岡 一嘉

(日の本辨工業(株) 社長)

謹んで新年のお慶びを申し上げます。本年も変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

一昨年の組合設立三十周年記念ベトナム視察研修に引き続き、昨年十一月にタイ視察研修が実施されましたので、新年のご挨拶にかえてご報告したいと思います。

中川理事長を団長、濱口副理事長を副団長とする私達総勢十四名(現地集合組は、東京から一名、ベトナムハノイから一名)は名古屋国際空港国際線チェックインカウンターに八時半集合し、一路、タイ・バンコクスワンナプーム国際空港に飛び立ちました。スワンナプーム国際空港に到着したのは現地時間の午後四時過ぎで、専用バスにてバンコク市内に入り、宿泊先のソフィテルバンコクスクンビットホテルへ。ホテルは、バンコク市内のダウンタウンに

新春メッセージ

2019年の抱負

『経営者に大切なこと』

(株)ミヤジマ 社長 宮嶋 誠一郎

新年おめでとうございます。旧年中は大変お世話になり、ありがとうございました。
新年早々たいそうなテーマで申し訳ございませんが、経営者にとって最も大切なものは何でしょうか？

私は平成十四年四月に父から社長を引継ぎ、今年の四月で九十七年になります。人の上に立つ者にとって最も大切なことは「無私(私心が無い)」ということだと思います。

位置し絶好?のロケーション。ただ、バンコク市内の交通渋滞はかなりひどく、インドネシアジャカルタ並みにのこと。以降の日程においても、バスでの移動時間かなりの時間を要することになり、一部日程の変更も余儀なくまりました。しかしながら、この交通渋滞も含め人の多さ、雑踏感などの雰囲気はバンコクの活気・ダイナミズムを感じさせるものでした(ここ数年の景気は悪いとのことでしたが)。荷ほどきもそこそこ、夕食もかねプラザホテル内の中華料理シルクロードにてJETROバンコク事務所の田口祐介様からタイ及びバンコクの概要と経済投資動向について一時間あまりのブリーフィングを頂きました。2011年の大規模洪水以降、他の東南アジア諸国と比較して低い経済成長率であったが、近年ようやく景気は上向きとのこと。様々な質疑応答が活発になりました。

二日目はバンコク郊外にある SCI Corporation Co., Ltd. 見学をさせていただきました。同社はタイの大手バルブメーカーで、設立時に日本の技術支援を仰いだとのこと。この辺の事情・経緯などは我々中川理事長がよく承知されてること。鑄鉄・ダクタイル鑄

その上で大事なことは、ミッション(Mission)、ビジョン(Vision)、パッション(Passion)と「MVP」ではないでしょうか?自分たちの仕事の使命とは何かを理解し、将来への夢・目標・方策を考え、それらを情熱をもって実行していくこと。その結果として、社員やお客様、世の中を幸せにすることができるとしています。

まだまだ未熟者の小生ですが、そういうことを心掛けて邁進(猪突猛進)する一年にしたいと思っています。本年も社員一同、どうかよろしくお願いいたします。

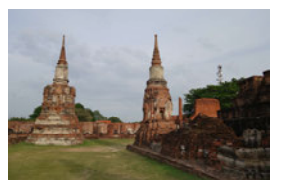
鉄の陸上・水道バルブを製造され、大口径バルブの機械加工設備も持つておられました。広い工場内をくまなく詳細に案内され非常に有意義な工場見学となりました。
午後は、交通渋滞がひどいため昼食もそこそこアユタヤ遺跡に向かいました。ワットプラシーサンペット、ワットマハタート遺跡を見学し、タイの歴史に触れるとともに、象にも乗り楽しい時間を過ごしました。

夕食は本日の工場見学を仲介して頂きましたアルコンニックス株式会社重永部長様、牧内課長様並びに同社現地法人社長松岡様とともにバンコク市内でタイ料理を味わいました。また、同席には、明日の工場見学先草津電気株式会社様現地法人タイ工場マネージャー谷利様もお迎えし、大変興味深いタイバンコク事情をお聞きしながらの有意義な時間となりました。実質上最終日の三日目は、チョンブリー県アマタコン工業団地にある草津電気株式会社様現地法人タイ工場を見学しました。同工場では、主に日系家電メーカー向けの洗濯機・空調機用のモーター製造されており、バルブメーカーとは全く違う製造工程(当たり前か!!)を興味深く拝見した。

午後は、昨日同様、昼食もそこそこバンコク市内観光に向かいました。が、相変わらず交通渋滞で一カ所(ジムトンブソンの家)のみの観光となりました。
一昨年度のベトナム研修と違い、今回は余裕のある日程かと思っておりましたが、交通渋滞により結果的に結構タイトなスケジュールと



スワンナプーム国際空港



アユタヤ遺跡

なりました。

夕食はチャオプラヤ川に面したマンダリンオリエンタルホテルのタイ料理サリムナームでのタイ古典舞踏を見ながらの夕食となりました。このホテルかなりのリッチ感のあるホテルで、一泊料金もそこそこ(ネットで調べて下さい)。行程最後の夕食は非日常空間(Escape from ordinary)で過ごせる時間となりました。

最終日、何ら問題もなくスワンナプーム国際空港から全員(現地集合組及び延泊組を除く)が無事に帰途につき、今回も大変有意義な研修であったものと思われまます。これも、中川理事長並びに濱口副理事長の素晴らしい指導力の賜物であり、中川理事長にはあらゆる面で本年のみならず末永く我々組合員一同の指導を切にお願いしたいと思つた研修でした。

最終日が週末であったため、和田社長、角田社長と私は、二泊延泊しゴルフを致しました。本年の研修も、最終日は週末で設定して頂いたものと思います。



①SCI バルブ工場前にて ②SCI 工場内



草津電機(株)タイ工場を訪問



滋賀バルブだより

滋賀バルブ協同組合

〒522-0037 彦根市岡町 52

TEL 0749-22-4873 FAX 0749-22-0463

新春メッセージ 青年部

滋賀バルブ協同組合 青年部

部長 松尾 直樹

(松尾バルブ工業 ㈱ 専務)

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、本年は日本にとって大きな転換期を迎えるタイミングとなりました。昨年の移民法(出入国管理法改正法)によって外国人の働き手が更に日本に入る環境となります。既に人口減少局面かつどの国も体験したことのない世界最速の超高齢化社会を迎える中で、中小零細企業においては廃業、解散、倒産等で年間四万件の企業が日本から消えている現実を突きつけられました。近い将来ではなく、現在の日本が置かれているリアルな状況です。

特に滋賀は国内で最も廃業率が高い県ということから、より深刻な問題を抱えている地域となっています。後継者不足に人材不足という非常にヘビーな問題を突きつけられ、目先、外国人実習生をあてにしているかざるを得ない状況に追い込まれつつある企業も多く、わが社も同じです。その外国人人材も、日本企業ではなくその他のアジアの国への出稼ぎの方のメリットがあるという判断で、日本企業を選ばない状況も浮き彫りとなっており、法令の改正による人材不足解消の効果は限定的かもしれません。

中小零細企業には、ヒト、モノ、カネ、情報という経営資源は豊富にありませんが、ない事を嘆いていても何も変化がありません。中小零細企業がこの先も活躍していくためには、現在有している限りある経営資源を最大限に活用することです。大企業においても、中小零細企業においても経営資源を最大限に活用している企業は本当に稀であると思います。ベクトルを合わせていくための心のよりどころである経営理念について更に考え、経営者と従業員さんが向かうべき将来を定め、そして力を合わせられる環境づくりによって得られるパワーを企業活動の原動力としたいものです。

それぞれの企業が、うちの会社は何のためにあるのか、われわれの存在価値はなんなのか、うちの企業でなければいけないものは何なのかという事を真剣に考え、置かれている環境を受け止め真摯に向き合うことがこれからの時代の経営には必要であると思います。

最近ではダイバーシティ(多様性)という言葉が最近よく聞くようになりました。「多様性」って考えると非常に難しいですが、例えば男と女、若手とベテラン、日本人と外国人という狭い範囲のみならず、文系と理系、理論派とイマジネーション派、右利きと左利き、長男と末っ子、聞き上手と話し上手、リーダーシップ型と調整型など見方を変えれば多くの多様性があります。組合企業においても多様な人材の方が働かれておりこれらの方向性を一致させることは難しい事です。常に追求していきたいと思っています。広い意味では無限の組み合わせが可能な多様な人材から、未知の可能性を有する相乗効果が生まれることに想いを馳せつつ、新年そして新時代を迎え楽しんでいきたいと思っています。

(追伸) 今年の八月でいよいよ四十歳となります。成人式を迎えた頃からあつという間に二十年近くが過ぎました。しかしながら、心はまだまだ二十代です。昨年の冬は十五年ぶりに復活したスノーボードを楽しみ大学生の頃にできなかった技もできるようになりました。五km、十kmのマラソンであればまだまだタイムは良くなっています。徐々に体も痛みやすくなっていますが、上手く心身をメンテナンスしつつ、何事もまだまだうまくなるはずだと根拠のない自信を支えに今年もいろいろとチャレンジしていきたいと思っています。

「継続」

副部長

清水 康裕

(清水工業 ㈱ 代表取締役社長)

新年あけましておめでとうございます。おかげさまで昨年十二月に当社は八十五年の節目を迎えることとなりました。この場を借りて厚く感謝申し上げます。

行動や結果において、プラスの意味の「継続」というのは、本当に難しいものです。

決めたことを継続する、という一見簡単なことでも、知らないうちに形骸化しやめてしまっている。良い結果を継続する、会社を継続する、ということとは、もつと大変なことです。継続するにあたり、良いこともあれば、悪いことや困難なこともあります。

ただそのすべてが継続のために必要なことで、受け入れる必要があります。

継続という言葉は、普段考えている以上に尊いものであるのかもしれない。

プラスの行動や結果、その継続の為に、組織や個人に何が必要なのか？

色々考えてみますが、やっぱり「プラスの心」！どんな時もポジティブ精神ですね。

本年もまた一年間ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

清水鐵工所

代表取締役社長 清水 智弘

明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年は六月に当社の代表取締役社長に就任させていただき、新しいスタートの年となりました。新たな気持ちで2019年を迎えることが出来たことに、心より感謝申し上げます。また、本年は五月に今上天皇が生前退位されるということで、新たな元号に切り替わる年でもあります。時代の節目を目の当たりにし、世の中も大きく変化することとなります。当社においても、変化のスピードに対応するべく、技術革新やビジネスのあり方を変えるスピード感を大切にしていきたいと考えています。そのためにも、今まで以上に外に目を向け、どのような技術が必要とされているか、顧客のニーズを迅速に捉え、素早く的確な判断をしていく必要があるように、社内外においてもコミュニケーションを増やしていく必要があると考えます。今日まで当社が培ってきた技術と経験と知恵を活かし、自社の優位性や差別化を明確にしていくことにより、大きく飛躍する年になるよう、また清水鐵工所が活気に満ち溢れた会社であり続けるよう努力してまいります。

最後に、皆様の益々のご発展とご活躍をこころよりお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

ミヤジマ

常務取締役 宮嶋 俊介

新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございます。

さて、私ごとですが、先日、人生「初」となるぎっくり腰をしまして、地元の奉仕作業中に「ピキッ！」とやっってしまった。軽度のぎっくり腰と思っていきましたが、時間の経過とともに起き上がることもできなくなり、情けないかな、嫁さんの肩を借りてようやく起き上がる事ができました。久しぶりの嫁さんとのスキンシップに「治らなくてもいいかも」とも思いましたが、「冗談はさておき、嫁さんのありがたさを痛感しました。

私はこれまで、口では「皆さんのおかげ」と言いつつも、どこかでは「自分のおかげ」という気持ちをもっていたように感じます。野球のヒーローインタビューで、選手が開口一番「ファンや仲間のおかげです」と言いますが、昔の私であれば、間違いなく「自分のおかげで勝った」と発言してしまうような男であったと思います。

今回のぎっくり腰は、これまで多くの方々の協力、助言、苦言などがあつて今の自分がある、ということに改めて気づかせてくれるよいきっかけとなりました。本年も皆と力を合わせて、笑顔たっぷりで頑張りたいと思います。本年もどうかよろしく願いいたします。

『事務局より』

あけましておめでとうございます。組合員の皆様には、お健やかに新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。ここに平成三十一年新春特集号として四頁お届け致します。今回は十三名の方から原稿を頂戴し掲載しました。今年は平成から新しい元号になる記念すべき年です。今年も業界の更なる発展のために、事業を展開していきたく思いますので、引き続き皆様のご理解ご協力をお願い致します。

『組合まつり』に出席

滋賀県中央会からの要請もあり、一月三十日(三十一日)に東京国際フォーラムホールEで開催される「組合まつり」に出席します。東京および全国の中小企業組合が大集結するイベントです。お越しの際は是非お立ち的下さいませ。